

関係代名詞

1. 関係代名詞の働き

関係代名詞自体に意味はありません。関係代名詞は、2つの文をくっつける働きをします。例えば、

「私は本を持っています。」

「その本は日本の文化についての本です。」

この2つの文、おかしい所は全然ありません。でも皆さんなら、無意識に次のように言いませんか？

「私は日本の文化についての本を持っています。」

わざわざ2文にしなくても、1文で表せます。このような場合に使うのが、関係代名詞なのです。

2. 関係代名詞の格

関係代名詞は、形容詞節をつくり、名詞を修飾します。そして、その文中の働きによって、3つの種類に分かれます。

1. 主格
2. 所有格
3. 目的格

これらの詳細は、それぞれの専用のページで詳しく解説しています。

3. 先行詞

関係代名詞は形容詞節をつくります。そして、その形容詞節が名詞を修飾します。この修飾される名詞を先行詞といいます。

4. 関係代名詞の種類

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	who (whom)
人以外	which	whose	which
どちらでも	that	-	that

関係代名詞は2つの条件で決定されます。

1. 先行詞が人か人以外か
2. 関係代名詞がどんな格なのか

この2つの条件で使用する関係代名詞が決まります。上の表をご覧ください。例えば先行詞が人で主格なら **who** を使います。まずはこの表を暗記して下さい。

また、人の目的格は **who** と **whom** のどちらでも構いません。ただ、目的格は省略できるので、**who** も **whom** も無い場合が多いです。もちろん、目的格ならば、**which**, **that** も省略可能です。